

夢洲 IR カジノ環境影響評価「公聴会」

6日15時から咲洲 ATC ビルで、写真の公聴会が開催された。昨年10月末に準備書が公告縦覧され、事業者と大阪市に意見書を提出した。公述申し出があり、条例により大阪市主催の公聴会が開かれた。新年早々、広い会場に詰めかけた傍聴者の前で、12名が8分以内で公述した。私の公述書は5日レポートで紹介したので、公聴会でとくに印象に残ったことを記録しておきたい。

トップバッターは、2022年12月の国連生物多様性条約の締約国会議について公述し、夢洲が貴重な生物多様性ホットスポットであり、IRカジノなど夢洲開発は時代の流れに逆行すると鋭く指摘した。

続く3人の公述人からも、夢洲の生物多様性のポテンシャル、自然回復力の強さなどが強調された。Aランクのホットスポット夢洲に、なぜIRカジノなのか、疑問の声が相次いだ。写真は公聴会後にもらった大阪自然環境保全協会編集の冊子。夢洲は大阪湾の宝、野鳥園臨港緑地(旧・南港野鳥園)とともに、「ラムサール条約登録」をめざしましょう!そして、日本の「ネイチャーポジティブ」を夢洲からスタートさせよう!と訴える。

夢洲の生物多様性ととも問題とされたのが、準備書に何回も登場する「SDGs」である。公述人の一人は、次のように発言した。

準備書には「SDGsの達成に貢献するサステイナブルなIRをめざす」と書かれている。IRの収益の8割はカジノが占めている。ギャンブル依存症患者やその家族を含む関係者は、貧困、一家離散、自殺などに巻き込まれる危険を抱えている。カジノに依存するIR事業は、「誰一人として取り残さない」というSDGsの目標達成に貢献できるとは思えない。SDGsを掲げながら、障害者について書かれていないことも問題だ。

このほか、気候危機とエネルギー問題、液状化や地盤沈下も環境影響評価すること、災害時の対策、下水道などインフラ整備、命の大切さ、「思われる、務める」といった表現は問題だ、などなど示唆に富む指摘が続いた。環境アセスに詳しい公述人は、市長意見では数値目標で具体的な指摘を事業者に求めてほしい。環境影響評価の事後調査は、調査対象と回数を拡大すべきなどと指摘した。12人の公述人は、それぞれ「持ち味」を活かして公述したと思う。大阪市は公聴会の結果をしっかり受けとめてほしい。

(2024年1月8日)

